

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 75人

② 数学 75人

#### 5 留意事項

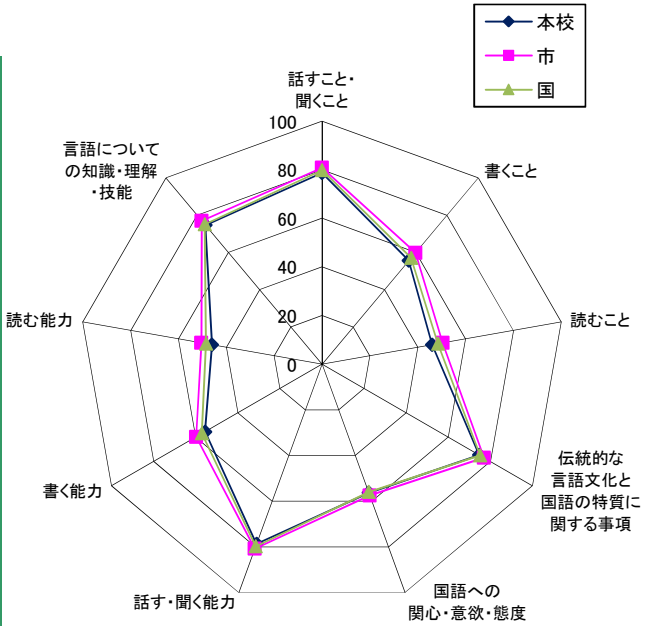
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 78.7 | 80.8 | 79.8 |
|     | 書くこと                 | 55.6 | 59.8 | 57.1 |
|     | 読むこと                 | 46.0 | 50.4 | 48.5 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 74.7 | 77.0 | 75.1 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 56.3 | 57.5 | 56.0 |
|     | 話す・聞く能力              | 78.7 | 80.8 | 79.8 |
|     | 書く能力                 | 55.6 | 59.8 | 57.1 |
|     | 読む能力                 | 46.0 | 50.4 | 48.5 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 74.7 | 77.0 | 75.1 |



★指導の工夫と改善

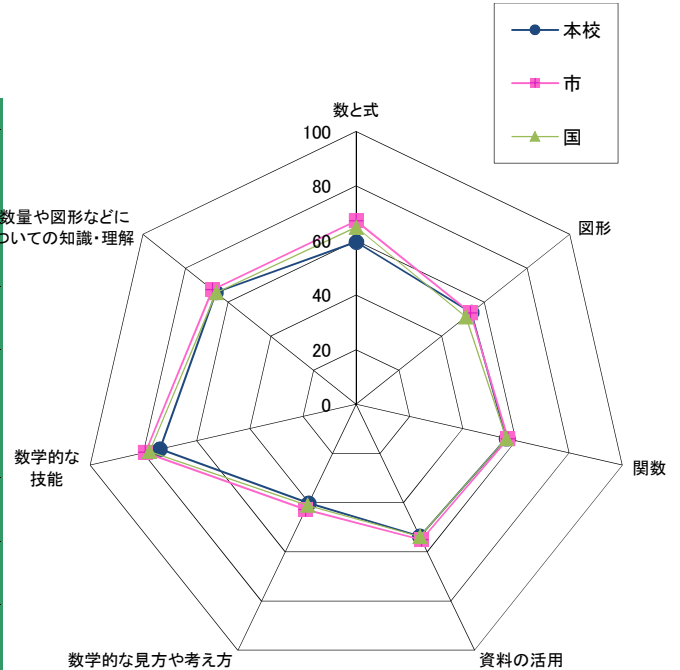
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | 平均正答率は、国の平均を1.1ポイント下回っている。<br>○話し合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりする問題には、約9割の生徒が正解している。<br>●話題や方向に沿って、どのような発言をするのがよいか、理由も含めて書く問題の正答率がやや低かった。無回答率も5%であった。                                                                                 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・相手に分かりやすく伝えるためには、表現を工夫すること、相手の反応を踏まえながら話すことが大切であることを理解させていく。<br>・国語の授業をはじめ、学級内の話し合い活動等においても、話し合いの方向を適切に捉えて、自分の意見を述べられるよう習慣づけていく。<br>・自分の考えを持ち、発表するためのメモを取る活動や、語彙を広げる活動を多く取り入れていく。                  |
| 書くこと                 | 平均正答率は、国の平均を1.5ポイント下回っている。<br>○意見文の構成の工夫を考える問題の正答率は、8割と高かった。<br>○伝えたい事柄が、相手に効果的に伝わるように書く問題には、7割の生徒が正解できた。<br>●書いた文章を読み返し、語句の使い方や段落相互の関係に注意して推敲するという、基本が身に付いていない生徒が多い。                                                           | ・「意見文」の学習では、自分の考えが相手に伝わりやすいように、段落構成を工夫し、根拠を明確にすることを意識した練習をさせていく。<br>・授業でも、新聞の読者投稿やコラムを用いて、ニュース・話題に対する様々な意見を紹介し、それに対する感想を記述させる活動を取り入れていく。                                                                                        |
| 読むこと                 | 平均正答率は、国の平均を2.5ポイント下回っている。<br>○文脈における語句の意味の理解を聞く問題の正答率は、国の平均を5.6ポイント上回って、約5割が正解している。<br>●場面の展開や登場人物の心情や行動に注意しながら読み、内容を理解する問題の正答率が、5～10ポイント低いのが目立った。<br>●文章に表れているものの見方や考え方に対する、自分の考えを書く問題では、全国平均並みの2割の生徒が正解したが、約4分の1の生徒が無回答であった。 | ・「朝の読書」を通して、落ち着いた学校生活のスタートを呼びかけてきたが、主体的な読書には至らない生徒も多い。語彙力や想像力の向上等、読書の効用をアピールしていく。<br>・授業での小説の読解時には、登場人物の言動から心情の変化を捉える活動を多く取り入れ、小説の主題を考えさせるようにしていく。<br>・進路選択を控えた時期だけに、社会の様々な問題に目を向けさせたいと考える。授業の中で新聞の読者投稿やコラムを取り上げ、一緒に読んで考えさせていく。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 平均正答率は、国の平均を0.4ポイント下回っている。<br>○文脈に即して漢字を読む問題には、9割を超えるの生徒が正答できていた。<br>●事象や行為を表す語句の理解度が低かった。<br>●相手や場に応じた敬語の使い方に関する、知識・理解があやふやな生徒が多い。                                                                                             | ・2年次、書写の時間に年賀状やお礼状作成について指導したものの、文章の内容や構成については十分にできなかった。相手に応じた形式や、言葉遣いを確認させていく。<br>・自分の考えをわかりやすく伝えるためには、正確な文法の習得も大切である。その基礎・基本を定着させていく。                                                                                          |

宇都宮市立田原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分                | 本年度  |      |      |
|----|-------------------|------|------|------|
|    |                   | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と式               | 59.5 | 67.2 | 64.9 |
|    | 図形                | 54.0 | 53.6 | 51.4 |
|    | 関数                | 56.4 | 57.0 | 56.4 |
|    | 資料の活用             | 53.7 | 55.1 | 53.8 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度      |      |      |      |
|    | 数学的な見方や考え方        | 40.2 | 42.8 | 41.1 |
|    | 数学的な技能            | 73.8 | 79.3 | 77.7 |
|    | 数量や図形などについての知識・理解 | 65.8 | 67.4 | 65.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | 平均正答率は全国と比較し、5.4ポイント下回っている。<br>●「数量の関係を一元一次方程式で表す」問題では、本校の正答率が62.7%と県、全国と比較し、9%程度下回っている。                                                        | 数と式に関しては、他の領域に比べて正答率が大きく下回っている傾向にある。基礎的な計算力を身に付けさせ、数学的な知識・技能を高めたい。また、問題を捉え、式で表したり、数学的に説明する力を養っていく。           |
| 図形    | 平均正答率が市や全国と比較し、それぞれ0.4ポイント、2.6ポイント上回っている。<br>○「四角形が平行四辺形になることを平行四辺形になるための条件を用いて説明する」問題では、本校の正答率が52%であり、県、全国と比較し、8%程度上回っている。                     | 図形領域に関しては、他の領域に比べて正答率が高い傾向にある。基礎的な事項から、さらに発展的に考える場面を授業の中で増やして、「数学的な見方や考え方」を高めていく。                            |
| 関数    | 平均正答率は市、全国と比較し、同程度である。<br>●「与えられた表、グラフを用いて、解を求める方法を説明する」問題では、本校の正答率が29.3%であり、県や全国を上回っているものの、3割に届かない低い正答率である。                                    | 関数に関しては、正答率は平均程度であるものの、無回答率が高く、まったく理解できていない生徒の割合も多い。表、式、グラフの関連づけを再度行うなど、知識、理解の定着につなげていく。                     |
| 資料の活用 | 平均正答率は市を1.4ポイント下回っているものの、全国とは同程度である。<br>○「中央値を求める」「相対度数の意味」を問う問題では、県、全国、の正答率よりやや高い割合である。<br>●「データの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現で説明する」問題では、本校の正答率が8%とかなり低い。 | 資料を整理し活用していくための数学的用語の履修を十分にいきなり知識・理解力を高めていく。<br>資料の読み取り方をしっかり指導するとともに、読み取った内容から出てくる判断理由を説明できる表現力を高める指導をしていく。 |

## 宇都宮市立田原中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 【生活面】

○毎朝、朝ごはんを食べる、同じ時刻に起床、就寝しているなど、規則正しい生活をしている生徒の割合が県や全国と比べ高い。本校は寝坊により遅刻してくる生徒も少ない。継続して規則正しい生活を送らせていきたい。

●「失敗を恐れずに挑戦している」との質問で、肯定的に答えた生徒の割合が県と比較し、やや低い。学校生活では積極的に前に出る生徒が固定化しており、消極的な行動になっている生徒が大多数いる。役割を固定化せずに、多くの生徒に活躍の機会を与えていきたい。

#### 【学習面】

○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に8割近くが肯定的な回答をしている。全国、県平均より10%以上も高く、1年生から自主学習帳を毎日提出したり、テスト計画表などの活用の成果の表れかと感じる。また同様に、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中に、計画的に学習を続けることができましたか」の質問に対しても、肯定的な回答をしている。

○「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問への回答は「ほぼ毎日」と「週1回以上」が6割以上となっており、今年度よりタブレット端末を取り入れた授業を行っている成果である。

●「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」や「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という質問に対して、平均よりも20%以上低く、自分の意見や考え方をまとめることを苦手としている。まずは簡単な課題からじっくり取り組む時間を確保し、自分の考えをまとめる活動を継続して行い、より丁寧な指導をしていく必要がある。

## 宇都宮市立田原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組        | 取組の具体的な内容                                                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                               |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・わかる授業を展開する工夫 | ・基礎基本を確実に習得させるために、ねらいと振り返りを行いその時間に学ぶべきことがわかったかどうかを確認させる。<br>・タブレットなどのICT機器の有効的な活用 | ・「国語や数学の授業がよく分かるか」の質問への肯定的回答の割合は全国より上回っている。<br>・「学習した内容について、わかった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか」の肯定的回答の割合は、80%となっている。<br>・コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したかの質問への肯定的回答の割合は、1,2年生のときの割合より増加している。 |
| ・家庭学習の習慣化     | ・家庭学習時間の目安や家庭学習の重要さの周知と担任や委員会からの呼び掛けや小テストを授業内で行うことで、家庭学習内容の充実を図る。                 | ・月曜から金曜までの一日当たりの学習時間や土日の学習時間の質問への解答は、長時間勉強している割合は全国より下回っているが、全くしない割合も下回っており家庭学習習慣も身に付いている。                                                                                               |